

平成27年度「チャレンジテスト」検証シート

学校名 大阪市立今宮中学校

【 第 1 学 年 】

生徒数(人) 55

平均点（点）

	国語	数学	英語
学校	55.0	49.5	63.9
大阪市	60.4	49.7	62.2
大阪府	61.0	51.0	63.5

平均無解答率（%）

	国語	数学	英語
学校	9.4	6.6	2.9
大阪市	6.7	4.9	3.4
大阪府	6.3	5.0	3.5

結果の概要

第1学年では、国語が府、市に比べて低いが、数学は大阪市に肉薄している。英語では府、市の平均を超えている。平均無解答率についても同じような傾向にある。得点分布を見ると、国語では府、市と比べて得点の低い方にシフトしているように見える。数学では一定高得点を取る生徒もいるが、苦手層が府、市と比べて多いようだ。英語については、得意層と苦手層に分かれている。得点分布としては高得点の方に少しシフトしているように見える。

成果と今後取り組むべき課題

国語の府、市との差が気になるところである。領域・観点・問題別の分布を見ても、本校が極端に苦手な領域・観点・問題があるわけではなく、全般的に低い傾向にある。得点分布でも低い方にシフトしていると言うことからして、全体的な底上げを図る必要がある。言語力は全ての教科に関わる問題なので、第一学年の国語力の向上は本校の大きな課題である。数学については苦手層が若干いるので、この層の克服を推進する必要がある。英語は概ね順調であると考えられるが、少数の苦手層の底上げが必要である。

【 第 2 学 年 】

生徒数(人) 55

平均点（点）

	国語	社会B	数学	理科A	英語
学校	50.3	55.6	53.3	42.6	56.1
大阪市	47.8	54.0	53.7	45.4	52.9
大阪府	49.2	56.1	54.7	46.5	54.8

平均無解答率（%）

	国語	社会B	数学	理科A	英語
学校	11.4	7.9	6.4	6.2	3.6
大阪市	13.3	6.9	8.2	7.0	4.2
大阪府	12.4	6.2	8.0	6.9	4.1

結果の概要

国語、英語は府、市の平均を上回っている。社会は市の平均を上回っている。数学と理科が府、市の平均を下回っている。ただし、数学、理科についても平均無解答率は府、市を下回っているので、なんとかがんばって解答している姿勢は窺える。得点分布を見たとき、数学と理科では高得点層が少ないのが気になる。

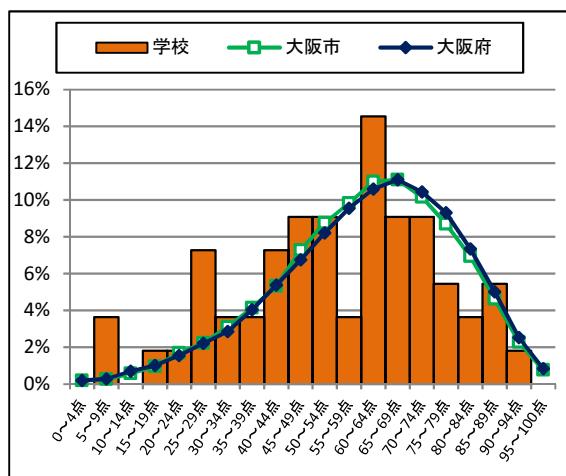
成果と今後取り組むべき課題

国語は一定の得意層があるので、平均としては府、市を上回ったが、苦手層もそれなりに分布している。社会も一定の得意層がいる一方で、苦手層がそれなりに分布している。数学では得意層が薄い。苦手層もそれなりに分布している。理科も得意層が薄く、全体的に低い方にシフトしている。英語は得意層から苦手層まで散らばっている。苦手層が若干薄いのが結果として、平均の高さに繋がっているが、苦手層の克服は重要である。総じて、苦手層の克服をはかるとともに、理科、数学については得意層を増やす努力も必要である。

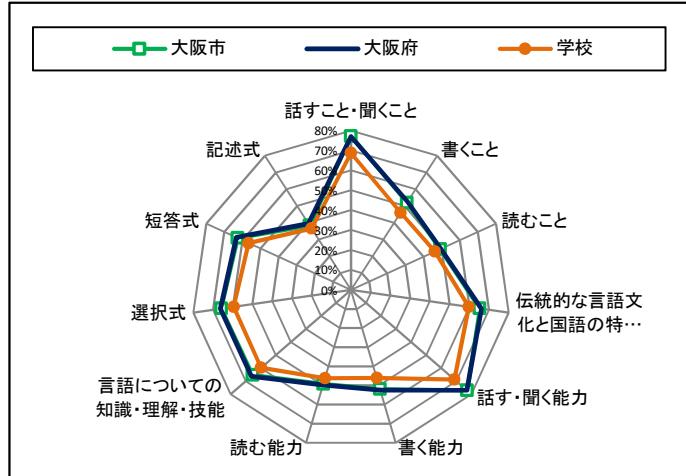
【第1学年 各教科の得点分布と領域・観点・問題形式別平均得点の分布】

【国語】

【得点分布】

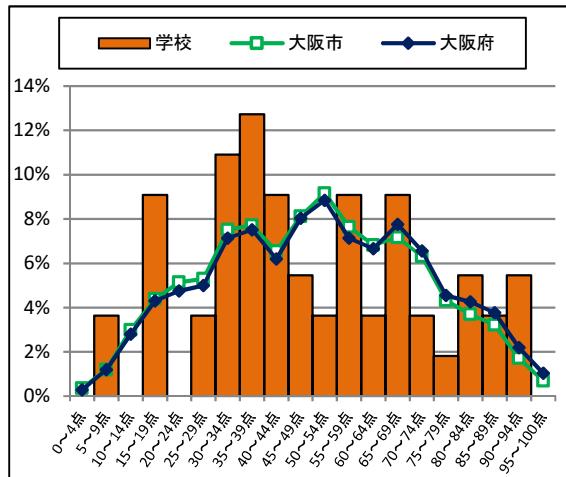


【領域・観点・問題別の分布】

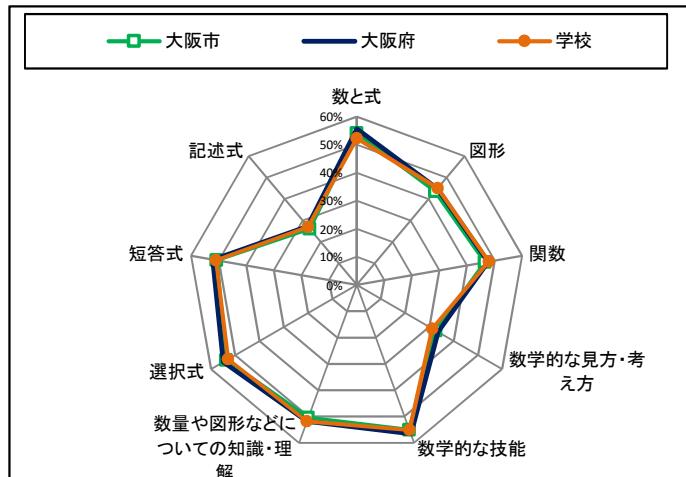


【数学】

【得点分布】

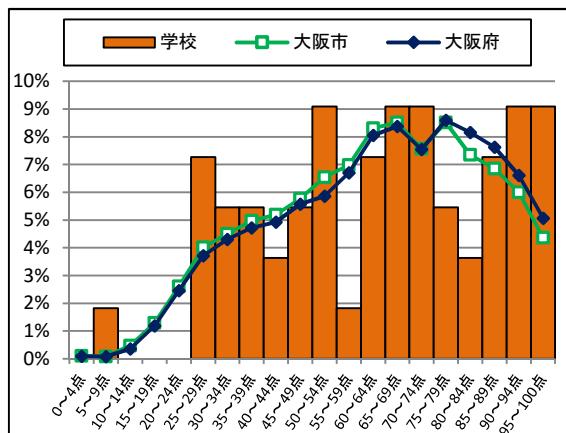


【領域・観点・問題別の分布】

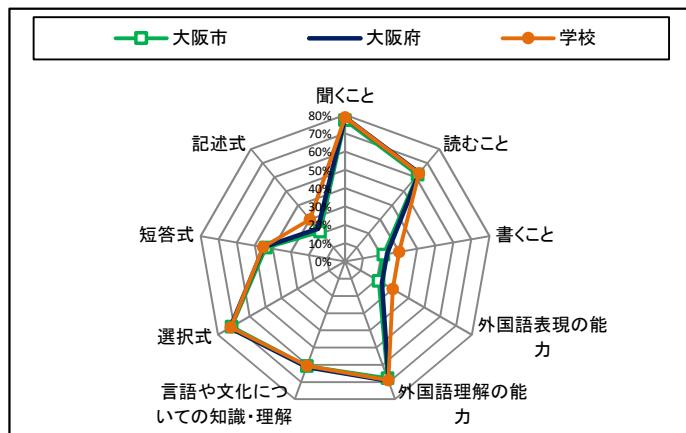


【英語】

【得点分布】



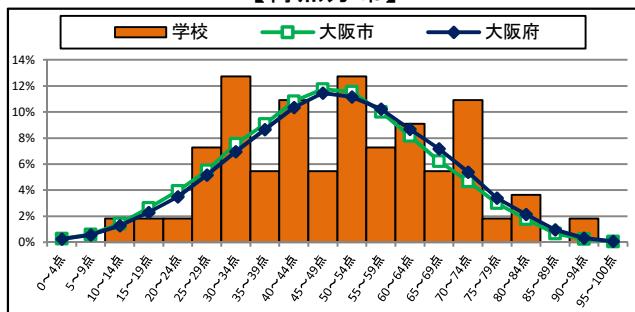
【領域・観点・問題別の分布】



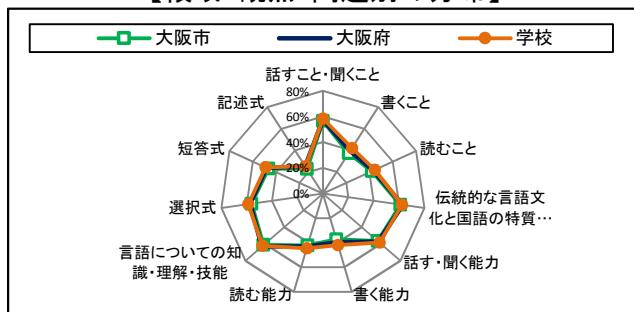
【第2学年 各教科の得点分布と領域・観点・問題形式別平均得点の分布】

【国語】

【得点分布】

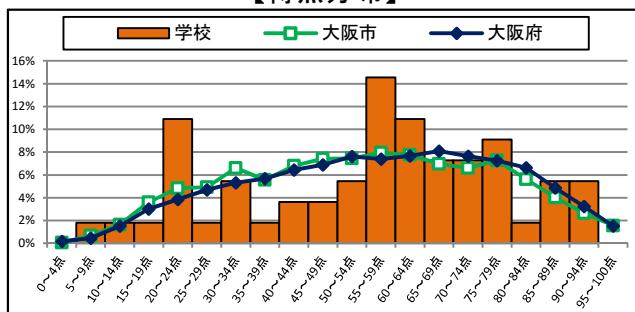


【領域・観点・問題別の分布】

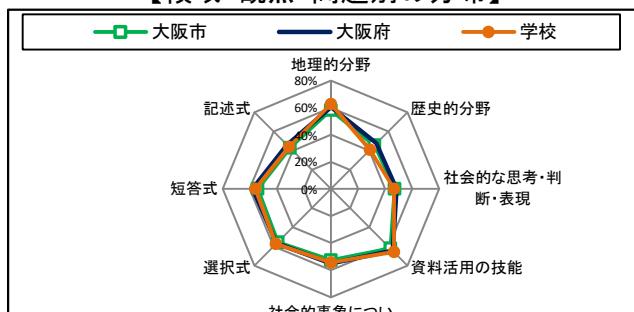


【社会B】

【得点分布】

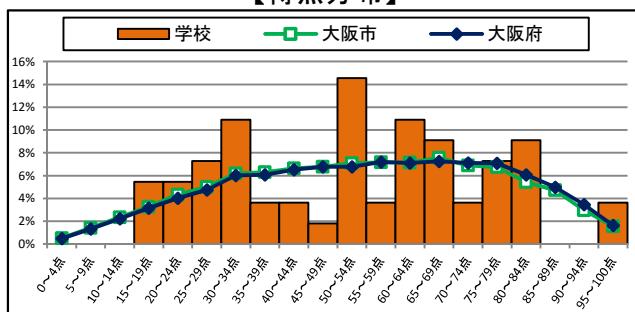


【領域・観点・問題別の分布】

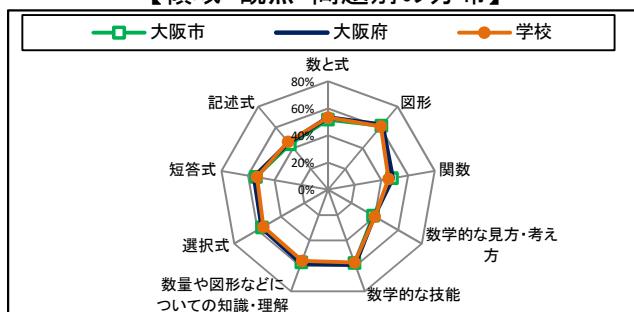


【数学】

【得点分布】

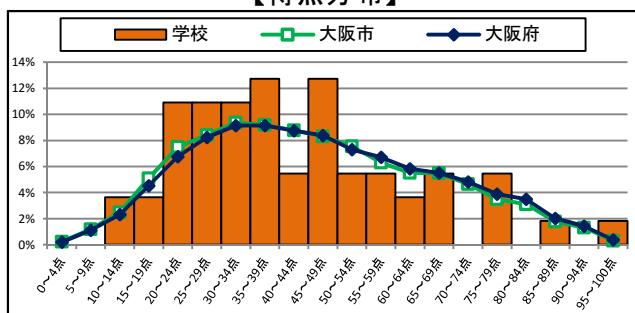


【領域・観点・問題別の分布】

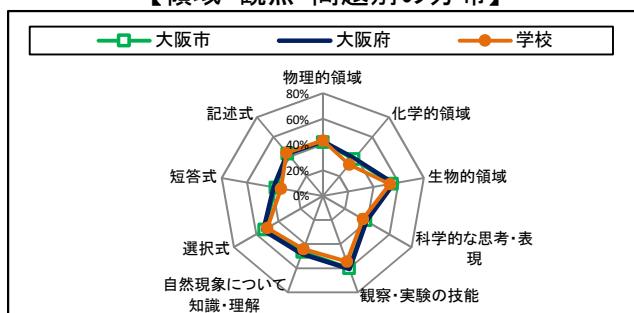


【理科A】

【得点分布】

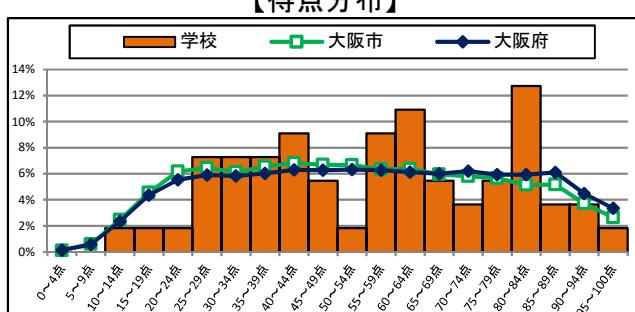


【領域・観点・問題別の分布】



【英語】

【得点分布】



【領域・観点・問題別の分布】

